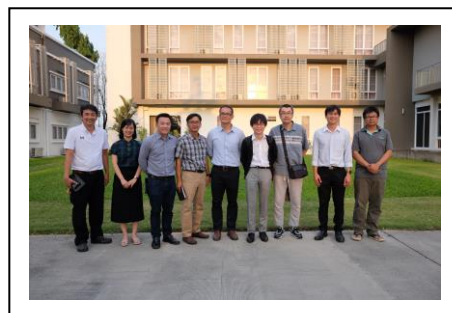


## カセサート大学訪問記

2018年3月22～24日 広島大学自立型研究拠点である畜産技術開発センター（RCAS）の活動の一環で、河上眞一准教授と新居隆浩助教がタイのバンコクで CP 実験農場、カセサート大学および SUNFEED 飼料工場の見学と、共同研究に関する意見交換を行いました。

22日にはタイ最大の畜産企業である CP グループの、CP 品質管理センターと CP 実験農場の見学を行いました。品質管理センターでは CP グループの概要の説明の後、施設内の見学をしました。最新鋭の成分分析機器を有し、飼料成分に関して数多くの項目の解析を行っているとのこと。実験農場では、施設概要について説明をして頂いた後、実際に農場内の実験施設の見学を行いました。広大な実験農場では、ブロイラーやレイヤー、豚、乳牛、アヒルなど様々な動物が飼育されており、小規模な代謝測定試験から大規模な飼養管理試験など、数多くの試験が行われていました。見学後は腸内細菌研究者の Wongphatcharachai 博士や、Srichana 上席副社長らと共同研究に関する打ち合わせを行いました。カセサート大学の Bunchasak 准教授を交えて、家禽の脳腸ネットワークの研究に発展させていく予定です。



23日は、カセサート大学農学部で Bunchasak 准教授の案内のもと、家畜栄養学研究室の見学をしました。その後は同研究室の Pongpong 講師（リゾファチジルコリン添加が産卵鶏の脂質吸収と卵生産に及ぼす影響）と Kaewtapee 講師（AI 技術を活用した飼料価格予測システムの開発）が自身の研究内容についてご紹介され、活発な討論が行われました。



24日にはバンコク北部にある SUNFEED の飼料工場見学をしました。SUNGROUP は飼料生産、家禽生産および食品加工の部門を有しており、これらを統括する Chamlong Termglinchan 社長と、飼料部門の Vivat Termglinchan 部長と会談しました。家禽生産現場における喫緊の課題についてお話しいただき、特に飼育管理技術について関心が強いということです。また、同社は家禽生産にハーブ抽出成分を使用することで良好な成績を得られているものの、その作用機序やメカニズムについては分かっていないため、こうした分子レベルの研究を広島大学に期待したいとのことでした。

この3日間の訪問および打ち合わせは、交流協定校であるタイのカセサート大学 Bunchasak

准教授のご配慮の元で実現しました。同校のみならず、上述のタイの企業とも活発な交流を継続し、具体的な共同研究へと発展させていく予定です。